

は じ め に

甲府市立玉諸小学校
校長 丸 茂 明 彦

昨年度までの成果の上にたって、本年度も研究主題『確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成』を踏襲し、副題を、～本校児童に身につけさせた力の定着に向けて～ として、教師一人一人のさらなる指導力の向上をめざして研究を進めてきました。

通常であれば、本校の研究の内容・経過、成果と課題等の一端について触れるところではありますが、本編の中で十分に語り尽くされているので、ここでは省くことといたします。詳細は、そちらをご覧ください。

さて、いつも思っていることですが、校内研究というものは何のために行うのでしょうか。教師一人一人の広範な指導力の向上のためであろうことは言うまでもありません。その指導力の向上は、日々の授業の質的な向上に結びついていきます。授業が変われば、子供も変わっていくものと考えます。何か特別なことをしようとするのではなく、日常の授業を着実に充実させることを第一に考えていけばよいのです。そうすることによって、いわゆる学力の向上にも結びついていくものと確信しております。

もちろん、一人であっても自らの指導力の向上を図っていくことは可能ですが、仲間と様々な考え方や意見を交わす中で得られるものは、個人での場合に比べると、はるかに厚みのあるものとなるはずです。

本校の教師集団は、日常的に刺激しあって伸びていける集団であり、その成果の一端が校内研究でも十分に発揮されているものであると信じております。

最後になりましたが、本校の研究に対して多くの御助言・御指導をいただいた県教委・市教委等の諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、ここまで研究の核となり全体をリードしてくれた研究主任、そして、本年度の研究に関わったすべての同僚にも感謝したいと思います。

平成 29 年 3 月

